

# 特定非営利活動法人 女性技術士の会

## ニュースレター vol.30



会員の皆さま、明けましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

昨年も大きな地震や豪雨災害が各地で発生し、甚大な被害をもたらしました。被災地の一日も早い復旧・復興をお祈りするとともに、技術者である私たちも、技術を通して復旧・復興に少しでも貢献できればと思います。今年酉年です。希望を胸に、大いなる飛翔の年としたいものです。

本ニュースレターは、特定非営利活動法人女性技術士の会会員のみなさまへ、本法人の活動内容を中心にお知らせいたします。第30号では、2016年10月～12月の活動報告、会員からの発信、運営報告、今後の活動予定などをお届けします。また、今回から「リレーエッセイ」に代わる新企画「技術士の部門紹介」が始まります。他にも楽しい記事が満載ですので、どうぞお楽しみください。

なお、ニュースレターではみなさまからの投稿記事を募集しますので、仕事のこと、趣味のことなど、お気軽に投稿してください。詳細は巻末のアドレスまでお問い合わせください。

| CONTENTS                             |   |      |
|--------------------------------------|---|------|
| <b>活動報告</b>                          |   | 2ページ |
| ■ 2016/10/02                         | 第10回 日韓女性技術士交流会                           | 2ページ |
| ■ 2016/11/19                         | シンポジウム<br>「女性技術者とワークライフバランス 第2回 ～仕事と介護編～」 | 2ページ |
| <b>会員からの発信</b>                       |   | 4ページ |
| ■ 藤代祥子さん                             | 「突然ぶらり旅～感動の地」                             | 4ページ |
| リレーエッセイに代わる新企画「技術士の部門紹介」のお知らせ（広報部より） |   | 5ページ |
| 【シリーズ企画】技術士の部門紹介 第1回 上下水道部門/下水道      |   | 6ページ |
| ■ 犬走朱見さん                             | 「豊かな水環境・良好な水循環を守るために」                     | 6ページ |
| <b>運営報告</b>                          |   | 7ページ |
| <b>今後の活動予定</b>                       |   | 7ページ |
| ■ 2017/02/11                         | 新年会                                       | 7ページ |
| ■ 2017/05/予定                         | 第10回 通常総会                                 | 7ページ |
| ■ 2017/07/14～16                      | INWES APNN 2017 Meeting in 横浜             | 7ページ |
| ■ 2017/10/04～06                      | ICWES17（第17回 国際女性技術者・科学者会議）               | 8ページ |
| <b>技術士を目指して</b>                      |   | 8ページ |
| ■ 笹倉萌子さん                             | 「今、を大切に」                                  | 8ページ |

## 活動報告

### ■ 第10回 日韓女性技術士交流会

- ◆ 日 時：2016年10月2日（日）15：00～20：30
- ◆ 場 所：栃木県日光市鬼怒川温泉 きぬ川ホテル三日月
- ◆ 活動形態：共催
- ◆ 主 催：（公社）日本技術士会
- ◆ 参加者：石田、岩熊、木村（了）、千木良、中西、氷上、廣瀬、宮地、井本（病欠） 計8名



栃木県から10名（技術士を含む女性技術者）、茨城県から1名（技術士）、韓国側女性技術士8名

- ◆ 経 緯：10年前より日韓技術士国際会議のプレイベントとして女性技術士シンポジウムを開催
- ◆ 概 要：

大会テーマ「伝統的技術と最新技術の融合と発展」

- ① 両国活動報告
- ② 日本側論文発表「都市の里山一人自然、そして生物多様性のための場所ー」井本郁子（代理 木村了）
- ③ 韓国側論文発表「浄水、浄化および脱臭技術の発展のためのCO2の包集および再活用」申浩傳



日本側の発表者が前日に急な発熱のため欠席となったが、木村理事長の代理発表は好評であった。

日本側：里山の再生、韓国側：火力発電のCO2削減技術についての発表で、分野は全く異なるが、持続可能な社会に向けた技術士の役割をそれぞれの視点から考えたという繋がりを感じさせる内容の濃い発表であった。里山も、CO2削減に陶磁器（セラミック）を利用するというのも、古くからあるものの価値を再確認する意味で、大会テーマにも深い繋がりを感じた。今回特に地元女性技術者（技術士を含む）の参加が多く、NPOの活動等にも興味を持ってもらい、情報交換ができた。活動報告の内容は年々お互いに充実してきていることを感じた。

### ■ シンポジウム「女性技術者とワークライフバランス 第2回 ～仕事と介護編～」

- ◆ 日 時：2016年11月19日（土）14：00～17：00
- ◆ 場 所：文京シビックセンター3階 会議室2
- ◆ 活動形態：主催
- ◆ 参加者：23名（会員18名、一般参加者5名）
- ◆ 講 師：久次奈美氏（JAXAワーク・ライフ変革推進室アドバイザー、東京福祉大学非常勤講師）
- ◆ テーマ：家庭の責任と仕事の責任



- ◆ 内 容：昨年開催のシンポジウム「女性技術者とワークライフバランス 第1回 ～現状と課題編～」は、主に若手女性技術者を対象とし、仕事と家事・育児の両立について話し合われたが、2回目となる今年は、主に中高年の社会人を対象とし、仕事と介護の両立について、専門家による基調講演の後、介護経験者を交えたパネルディスカッション及び質疑応答を行った。

【第一部】：基調講演「介護で仕事を辞めないために ～資源を最大限に活用して乗り切ろう！～」

#### ○現状

- ・日本は2007年に超高齢化社会になった。介護が必要になる期間（平均寿命から健康寿命を引いた期間）は約10年。介護を受ける側は7～8割が女性である。
- ・65歳以上の6人に1人は認知症患者。認知症は緩やかにやってくるが、突然気づくことが多い。

### ○社会資源とは

- ・介護保険サービスや民間の介護サービス、職場の介護支援制度、介護保険の知識や介護の技能、家族や友人などの人的資源、役所や地域包括支援センター（略称「包括」）、介護保険法や育児・介護休業法や雇用保険法等、介護を取り巻くあらゆるサービス、制度、人、行政、法律などを指す。
- ・家族の構成と年齢、友人・知人やかかりつけ医、「包括」やケアマネージャーなど、資源になりそうなものを図（ジェノグラムとエコマップ）にして、自分の現状を把握する。

### ○社会資源を活用する

- ・家族の中のキーパーソンは誰かを把握する。1人を支えるのに4人要ると言われている。
- ・親もIT機器を使えるようになればスマホやスカイプが活用でき、遠距離介護も可能となる。
- ・介護保険制度や受けられるサービスの内容を知り、また、家族以外の資源（親の生活圏の知人や自分の支えになってくれる介護友、「包括」、民生委員、等）を把握・開拓する。

### ○事例紹介（親がリウマチで立てなくなった）

- ・市役所に介護認定を申請し「包括」に連絡 ⇒ 「包括」の来訪や病院の診察、認定調査 ⇒ 事業所ケアマネージャーによる介護プランの作成 ⇒ リハビリ施設を見学（その折々に仕事の休みを取った）⇒ 通所リハビリを開始して落ち着くまでに4ヶ月かかった。

### ○まとめ

- ・知識を増やし親との間で早くから準備しておくことが大事である。今できることから始める。
- ・誰か一人が抱え込まない。家族力、人的資源力をつけよう。
- ・介護保険・介護サービスは「申請ありき」である。まずは申請するところから始めよう。

## 【第二部】：パネルディスカッション（パネリスト；久次講師、木村理事長、犬走、宮地）

### ○介護体験者 A さんの事例

- ・高齢（80代後半）の両親と自分の3人家族で、母は介護認定済みで週2回デイサービスに通所している。
- ・この一年ほどで母の状況が不安定となり、父の疲労もピークに達し、自分も体力低下・健康不安を感じ始めた。
- ・上記のような理由から、今年春から働き方を原則在宅勤務（週1回出勤）に変更した。
- ・ワークライフバランスを仕事から家事・介護へと少しずつシフトしたことにより、精神的余裕ができて、仕事・家事・介護がうまく回ってきていると感じる。頑張り過ぎないことが大事と痛感した。



### ○介護体験者 B さんの事例

- ・実家の父が8月に入院、手術後退院し自宅療養中であつたが、10月に母が大腿骨を骨折して入院。
- ・実家は電車で1時間半ほどの距離で、自宅と実家と実家近くの病院を行き来している。病院や介護施設との折衝は全て平日の日中なので、週に1~2回の半休を取りながら仕事をしている。
- ・急なことで介護申請をしていなかったことから諸々の介護サービスを受けるのに時間がかかった。
- ・現在は父がデイケアサービスを利用するようになり健康状況も改善し、自分も少し余裕ができた。
- ・頑張りすぎるとストレスがたまりそれが父や母にも悪影響が出ることを痛感。ケアマネージャーや「包括」は横のつながりを大切にしてくれているな、と思えるが、病院はまだまだ縦割りだと思う。

### ○講師からのアドバイス

- ・在宅で介護する際には訪問リハビリなどのサービスを利用するとよい。間に誰か入ってもらおうと気持ちになる。一緒に家にいながら他人の力を借りると、メリハリができてよい。
- ・民間の家事支援サービスや地域の老人会の配食サービス等を利用してみるのも一つの方法である。

- ・介護度の更新は1年に1回。柔軟に対応してもらえが、介護度が高いとサービスの金額も高いので、介護度が高いままにしておくのが良いとは言えない。サービス毎に金額が決まっています合計30万円の上限がある。収入によって1~2割が自己負担になり、30万円を超えると実費精算となる。
- ・親に持病がある場合、まずは病気の状況を把握するため診察に一緒に行き、事実を知ることが重要である。普段から服用している薬の情報も把握しておくが良い。
- ・親には見栄があり、子供に本当のことを言わないことがあるが、家族皆で話し合うことが大事である。兄弟で確認しあうと全然違う親像が出てくることもあり、知らない一面に気づくことがある。
- ・支援サービスを受ける前には数回実家に行く必要はあるが、遠距離介護も可能である。スカイプなどで普段から様子を見ておくのがよい。高齢者のみの世帯は優先度が高いので施設にも早く入れてもらえたりする。ただし特別養護老人ホームは要介護3以上でないと入れないし待機が長い。お金はかかるが有料施設もある。しかし医療ケアが必要だと入れない所もある。認知症の場合は認知症グループホームという選択肢もある。
- ・介護者は限界まで頑張らないで、素直に「疲れている」と言うことも大事である。
- ・心配事がある場合は、早めに被介護者の居住地の「包括」に相談してみると良い。
- ・介護サービスに自分を合わせる必要はない。困っていることにサービスを合わせる。

## 会員からの発信

### ■ 藤代祥子さん（応用理学部門 地質） 「突然ぶらり旅～感動の地」

はじめまして、藤代祥子と申します。地盤の基礎工事を専門とする建設会社に勤めています。土木の世界に入ってから11年目を迎え、研究開発2年、工事部6年を経て現在は（技術）営業部に所属しています。

今回は、工事部時代から実施するようになったリフレッシュ方法と感動した地についてご紹介したいと思います。

工事部時代は、社内で“一人現場”と呼ぶ“社員一人+作業員”で工事に臨むことが比較的多くありました。現場代理人として乗り込み前の調整や安全書類、予算の作成から、乗り込み後の安全に対する注意喚起・品質・出来形管理、原価のまとめや精算までをほぼ一人で行うものです。プレッシャーは大きいですが自身に任される範囲が広くやりがいを感じました。一方で、毎日男性にしか接することがなく、工程に追われ“女子力”なんてどこへやらと心が荒んでしまうこともありました。そのような中、いつからか、突然旅立ちたいという衝動に駆られ、実施するようになったのが“突然ぶらり旅”です。木曜日～金曜日に突然思い立ち、場所と宿を決めて旅に出るようになりました。「土曜の現場終了後17時過ぎに静岡の掛川から新幹線に乗り、東北の花巻温泉で一泊し平泉を見て日曜に帰る」というような旅です。「さっきまで泥まみれで働いていたのに、全く違う場所にいる」とたった数時間で日常とかけ離れることができる不思議な感覚がリフレッシュにつながりました。独身貴族だからできる行動かもしれませんし、もったいないと言われることも多かったのですが、貴重な心の栄養時間でした。

その中で特に感動し、より濃い非日常感を味わえたのが“バヌアツ共和国”でした。女性技術者のつながりで仲良くなった友人がJICA（国際協力機構）の活動で配属になったことがきっかけでした。フライトが片道30時間（乗換含む）前後の海外であったため、“突然の旅立ち”にはなりませんでしたが、準備不足具合は突然ぶらり旅と同等でした。日本語以外は話せない、海外旅行はほとんど行ったことがない、安全意识が足りない……と家族にはだいぶ反対されましたが、無事に帰国できたので非常に貴重な良い経験になっています。（ただ、さらに安全に楽しむためには語学力が不可欠ということ強く実感したので、次回は多少の会話ができるようになって旅立ちたいです。）



写真1 ヤスール火山(筆者右)

バヌアツは、オーストラリアの北東に位置しシドニーから飛行機で2時間程度の場所です。83の島々からなる日本と同じような島国で、半分は火山島です。大学の専攻は火山だったので、観光できる火山があると知った時、強く希望して火山観光を織り交ぜてもらいました。行程の一部は以下の通りです。

→→日本：中部国際空港→乗換：北京→乗換：シドニー→バヌアツ：ポートビラ(国際空港)

→国内線でタンナ島へ→車の荷台で2～3時間揺られヤスール火山到着→10分歩くと火口！！

また非日常感を強く感じた部分は以下の通りです。

- ・車の荷台で立ったり座ったりシートベルトはなく自由に乗車。浸食された道も多い中、自分の身は自分で守る輸送車でしたが外の風を感じながらの素敵なドライブ(写真1)。
- ・道沿いの村では、フルーツの路上販売。マンゴー(数十円)、バナナ、パイナップル絶品！！
- ・たった10分で活動中の火口まで登ることができ、10分に1回発生する噴火が目の前で見られる(写真2)。マグマの熱さを肌で感じ、生まれただの少し熱い火山灰を浴びることができる(写真3)。

違う文化に触れ、地球の息吹を肌で感じられた貴重な経験でした。新しい土地で出会う感動と自分の常識が常識ではなくなる不思議な感覚がぶらり旅の醍醐味だと改めて実感した旅でした。

簡単にご紹介になってしまいましたが、ご興味がある方は是非訪れてみてください。

最後に、“突然ぶらり旅”はできなくなりますが、私の夢は“子供4人を育てながら技術者であり続けること”です。子供4人というのは、自分が4人きょうだいなので同じようにたくさんの子供に囲まれたいというだけで、実行はこれからです。こういうことを伝えると「ガンバッテ」と応援して下さる方もいれば「当然のことなのにそれが夢とは日本は悲しいね」と言ってくれる方もいます。

建設業界も、今まで以上に女性に焦点が当てられ職場環境の改善に向けて声があがっています。しかし、子育て中の身近な先輩が働きにくさを感じて辞めてしまうこともあり、将来を思い描く難しさを感じています。今回のようなニュースレターでの交流などを通じて働き方を模索していきたいと思っていますので、引き続きよろしくお願い致します。



写真2 ヤスール火山火口にて



写真3 噴火状況

## リレーエッセイに代わる新企画「技術士の部門紹介」のお知らせ(広報部より)

### ◆ これまでの経緯

ニュースレターでは、会員からの自由な投稿記事として、これまでは、首都圏会員による「リレーエッセイ」と地方会員による「会員からの発信」の2本立てでご紹介してまいりましたが、会員の居住地により区分する必要もないことから、会員からの自由な投稿は「会員からの発信」に1本化し、本法人に相応しいテーマを決めて、それに沿って書いてもらう新企画を立ち上げてはどうか、ということになり、今回の新企画「技術士の部門紹介」を、この第30号から連載することとしました。

### ◆ 「技術士の部門紹介」についての書き方

技術士の部門は全部で21もあるので、「自分の技術部門以外はよくわからない」というのが本音ではないでしょうか。そこで、ご自分の「技術部門/選択科目」についての内容説明、並びに、実際に担当している業務の内容についてもご紹介いただき、技術士の部門全般に亘って広く理解を深めるとともに、会員相互の情報交換の場になればと考えています。

「技術部門/選択科目」の説明の書き方は、部門によって選択科目の数の違いもあるので（建設部門は選択科目が 11 もあります）、基本的にはご自分の選択科目に関してご紹介いただければよいと思いますが、部門によっては選択科目の名称に変更があり、自分が取得した当時と現在では選択科目の名称が一致しない場合もあるかと思しますので、そこは臨機応変・柔軟に対応していただければよいと思っています。

#### ◆ 今後の展開

連載の第 1 回は、今後の書き方の雛形的な意味もありますので、本企画の発案者の一人である犬走（広報部）が「上下水道部門/下水道」について執筆致しました。今後、会員の皆様には、順次、お声掛けさせていただきますので、ご協力の程、どうぞ宜しくお願い致します。

なお、該当する技術士が本法人にいない技術部門につきましては、皆さまのお知り合いの技術士をご推薦いただくなどして広く外部の方の寄稿も歓迎したいと考えておりますので、その際にも、ご協力の程、宜しくお願い致します。目指すは「全部門制覇！」ですので、どうぞお楽しみに！

### 【シリーズ企画】技術士の部門紹介 第 1 回 上下水道部門/下水道

■ 犬走朱見さん（上下水道部門/下水道） 「豊かな水環境・良好な水循環を守るために」

#### ◆ 「上下水道部門/下水道」の概要紹介

上下水道部門は、「上水道及び工業用水道」、「下水道」、「水道環境」の 3 つの選択科目に分かれており、そのうち「下水道」は、下水道計画、流域管理、下水渠、下水処理、廃水処理など、主として汚水処理および雨水管理に関する技術分野です。

では、具体的に、もう少し詳しくご説明しましょう。

人間は水が無くては生きてはいけず、更に言うと、水を汚すことで生活や経済活動が成り立っています。下水処理場は、私たちが汚した水をきれいにし、安全な処理水として川や海などの自然界に返す重要な社会インフラであり、人々や街を浸水の被害から守り、衛生的な生活環境を維持し、流域の水環境を保全するという社会的使命を担っています。

また、近年では、低炭素社会の実現に向けて、下水道の持つ様々な価値（下水熱エネルギーの利用、下水汚泥の燃料化、下水中のメタンを利用した消化ガス発電、処理場の広大な敷地を利用した太陽光発電等々）に着目し、下水処理場は地域の再生可能エネルギー利用の拠点施設としての役割も求められています。

このような社会的使命や役割を果たすために、汚水処理計画については、都市計画や環境基準（大気・水質・土壌等）とも整合を図りながら、その地域の人口・地形・経済活動・放流先の水利用計画の動向等、様々な側面から分析・検討し、当該地域の汚水処理全般に係るランドデザインを描き、下水処理場の位置や規模、水処理方式・汚泥処理方式、処理水や汚泥の再利用方法を計画します。また一度決定した下水道計画も、時間の経過とともに条件が変化すれば（人口減少に伴う流入水量減、接続区域変更に伴う流入水量増等々）、その変化に見合った変更計画を立案し、将来に亘って地域の下水道事業を見守っていきます。

下水道普及率の全国平均は約 78%に達しており、新規の建設事業は少なくなっていますが、近年では大規模地震・豪雨災害等の頻発により、下水道施設の市民生活に与える影響がクローズアップされており、また、老朽化した下水道管の破損が原因の道路陥没事故等も多発していることから、下水道施設の耐震化・長寿命化診断や、老朽化施設のアセットマネジメント等も、技術士の果たすべき業務の大きな柱となっています。

#### ◆ 現在の私の担当業務の紹介

私が上下水道部門の技術士資格を取得したのは今から 16 年前（2001 年）、上下水道主体のコンサルタントに勤務していた時期でした。そこでは、前述のような、下水処理場に関する調査・計画・設計等を主に担当していましたが、その後 2007 年に、環境関連公共施設（浄水場、下水処理場、ごみ焼却施設等）の維持



持続可能な水循環のイメージ  
(出典：東京都下水道局 HP より)

管理を主たる業務とする会社の技術部門に転職し、現在は、プロポーザル資料の作成や、現場の技術支援・書類作成支援、内部監査（セルフモニタリング）、若手の教育・育成等の業務を担当しています。

コンサル時代は、調査・計画・設計等の下水道事業の川上の部分に関わってきましたが、今は、下水処理場の運転維持管理という川下の部分に携わり、理屈だけではうまくいかない難しさを痛感しています。特に下水処理は生物処理が基本で、同じ水処理方式でも水温・流入条件の違いや微生物に送る空気量のさじ加減一つで、得られる結果が全く異なる場合があるので、微生物のご機嫌を伺いながらきめ細かな対応が必要となります。また、計画や設計の段階では予想できなかったことも、実際に運転して初めて使い勝手の悪い施設配置・設備仕様等に気付くこともあります。しかしこのご時世、費用のかさむ大規模改修等は難しいため、当初の施設・設備で何とか結果を出すべく、現場のスタッフとともに創意工夫に知恵を絞っています。

下水道事業は建設の時代から維持管理の時代へと移行しており、高度経済成長期に整備したインフラの老朽化が進む中、限られた財源の中で 120%のコストパフォーマンスを発揮させ、人々の生活と流域の水環境を守るべく、維持管理の現場はまさに「最前線」で日々奮闘しています。

## 運営報告

| 主 体   | 日 時                   | 議 題  |
|-------|-----------------------|--|
| 理 事 会 | 12月10日(土) 10:00~12:00 | 来年度の活動 (INWES APNN 2017 Meeting、見学会、ICWES17)、各部会報告、新年会 等 |
| 事 務 局 | -                     | 入退会管理、資金管理、Web 確認 等                                      |
| 企 画 部 | メールによる活動              | シンポジウム準備、開催後のアンケート取りまとめ・報告書作成 等                          |
| 広 報 部 | 1月20日(金) 18:30~20:30  | 理事会協議事項の伝達、ニュースレター (Vo.30、Vol.31) の編集、来年度の活動 他           |
| 国 際 部 | メールによる活動              | INWES APNN 2017 Meeting 開催準備、ICWES17 に向けての下準備            |
| 地域交流部 | メールによる活動              | 会員からの活動ニーズ調査、会員活動情報の発信                                   |

## 今後の活動予定

### ■ 新年会

- ◆ 日 時 : 2017年2月11日(土) 18:00~20:00
- ◆ 場 所 : 琉球市場 やちむん 丸の内 (東京都千代田区丸の内2-7-2 B1 KITTE グランシェ)
- ◆ 会 費 : 4,500円
- ◆ 申込み : 2月8日(水) 昼までに下記の URL からお申込みください。  
<https://ws.formzu.net/dist/S35403620/> (PC、スマホ、携帯共通)  
 申し込み後のキャンセルは、[event-jspew@freeml.com](mailto:event-jspew@freeml.com) まで (2月8日以降はキャンセル料が発生)

### ■ 第10回 通常総会

- ◆ 日 時 : 2017年5月第3週 or 第4週の土曜日を予定
- ※ 時間、場所等は決定後、MLやWebサイトでお知らせします。

### ■ INWES<sup>1</sup> APNN<sup>2</sup> 2017 Meeting in 横浜

- ◆ 日 時 : 2017年7月14日(金) ~16日(日)

<sup>1</sup> INWES : International Network of Women Engineers & Scientists、本法人はINWESの加盟団体。

<sup>2</sup> APNN : Asia Pacific Nations Network、INWESにおけるアジア・パシフィック諸国のネットワーク。

- ◆ 場 所：横浜シンポジア
- ◆ 対 象：APNN 加盟団体員および技術系・科学系で学び働く高校生、大学生、女性技術者・科学者、他
- ◆ 概 要：14日はINWES APNN 会議にてカントリーレポート等の発表を行う。参加予定者は、INWES ボードメンバー(US、ヨーロッパ、アフリカ)、UNESCO 関係者、日本男女共同参画推進事業関係者等、他13ヶ国の代表。15日はGWST (Global Women in Science / Technology) 会議「世界で輝け、理系女子！ ～あなたの夢が世界を変える～」を開催する。参加予定者は400名。グローバルな環境およびアジア各国で活躍するSTEM分野<sup>3</sup>の女性技術者・科学者の経験などを紹介する。

■ ICWES17 (第17回 国際女性技術者・科学者会議)

◆ 日 時：2017年10月4日(水)～6日(金)

◆ 場 所：インド共和国(ニューデリー)

※ 会議の詳細に関しては、ICWES事務局より発表後、MLやWebサイトにてお知らせします。

## 技術士を目指して

■ 笹倉萌子さん(農業環境工学専攻) 「今、を大切に」

東京農工大学大学院修士2年の笹倉と申します。現在修士に向けて農業用ため池における崩壊土砂流入の影響について研究を行っています。大学院では農業土木について学んでおり、来春より農業土木の建設コンサルタント会社で働くことが決まっています。環境問題に興味を持ち農学部を志望していた6年前のあの頃は、自分が大学院へ進学し建設コンサルタント会社へ就職するどころか、農業土木という分野すら知らない状態でした。興味の赴くまま学び進んできた学生生活を振り返る中で、印象的な出来事を記載したいと思います。



農業土木という分野であるがゆえ、私の専攻や研究室では多くの先輩方が公務員やコンサルタント会社で働いています。例に漏れず興味を抱きコンサルタント会社について知りたいと思い、修士1年の夏にベトナムにある日本の建設コンサルタント会社でインターンシップを行いました。実際の業務や現場見学を通して技術者として働くこと、持っている技術を生かして社会貢献することの面白さを感じました。

また、修士2年の秋には韓国で開催されたYWS Camp<sup>4</sup>に参加させていただき、様々な国の女性と交流しました。女性技術者・研究者として活躍している彼女たちはエネルギーに満ち溢れ生き生きとしているのが印象的でした。いくつになっても夢を持ち技術者や研究者として学び働き続ける彼女らの姿は、これから社会人として新たな門出を迎える私にとって大きな励みとなっています。

6年前、今の自分を想像できなかったように、6年後の自分がどこで何をしているのかは分かりません。しかしながら、これまでの経験や人との出会いを通して、何か自分の専門を持ちその技術をもって社会に貢献したいという思いが強くなりました。それを実現するために私ができることは、今を一生懸命に生きること。目の前のことに真摯に取り組むことが大切であり、この気持ちを忘れずに日々邁進していきたいです。社会人1年目となる今年は技術士補合格を目指して励みたいと思います。

<sup>3</sup> STEM分野：Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Mathematics(数学)の頭文字をとったもので、APNN会議では、薬学の分野も含まれる。

<sup>4</sup> YWS Camp：Young Women Scientists Camp、INWES加盟団体である韓国女性科学者技術者の会(KWSE)主催。

ニュースレターについてのご意見・ご感想はこちらまで：[info@pej-lady.org](mailto:info@pej-lady.org)

2017年第1号 通巻第30号 発行責任者：特定非営利活動法人 女性技術士の会 理事長 木村了